

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果の概要について

1 調査の概要

(1) 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象学校・対象学年

- ① 美濃加茂市内公立学校(組合立学校を含む)[小学校9校、中学校3校]
- ② 小学校第6学年、中学校第3学年

(3) 調査内容

- ① 教科に関する調査[小学校:国語、算数、理科 中学校:国語、数学、理科]
- ② 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(4) 調査実施日

令和7年4月17日(木)

2 美濃加茂市における調査結果の概要

(1) 教科に関する調査結果の分析の概要

- 小学校は、国語・算数・理科ともに全国平均正答率を下回っています。中学校は、国語・数学とも全国平均正答率を下回っています。「理科」においては全国平均をやや上回っています。
- 調査問題別に本市と全国の平均正答率を比較すると、小学校・中学校ともに、よくできている調査問題と課題となる調査問題の傾向はほぼ一致しています。

【国語】

- 小学校では、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる力がついてきています。
- 小学校では、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があります。また、目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見つけることに課題があります。
- 中学校では、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができます。また、書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができます。
- 中学校では、資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することに課題があります。
- 小学校、中学校ともに、既習の漢字を文中で正しく使うこと、中学校では事象や行為を表す語彙の理解など、言葉の特徴や使い方に関する事項において課題があります。

➡ 課題解決への手立て

- ◇ 目的や意図を明確にし、客観的事実を基に文章を書く活動で、文章がその目的・意図に沿っているか、事実が自分の考えを裏付けているかを確認する場面を位置付け、効果的に考えを伝える書き方の定着を図ります。
- ◇ 伝えたい内容が聞き手に伝わっているか確認し、資料や機器の効果的な使い方を検討する場を設け、分かりやすく伝える表現力を養います。

【算数・数学】

- 小学校では、角の大きさについて理解することができます。また、不定形な図形を分割して面積を求める力が身についてきています。一方、台形の意味や性質について理解することに課題があります。
- 小学校では、「10%増量」の意味を解釈し、増量後が増量前の何倍の量になっているかを表すこと

に課題があります。

- 中学校では、一次関数 $y=ax+b$ について変化の割合を基に x の増加量に対する y の増加量を求める力がついています。また、多角形の外角の意味を理解できています。
- 中学校では、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題があります。また、数学的な用語の意味理解に課題があります。

➡ 課題解決への手立て

- ◇ 算数数学の系統性に留意して既習内容を振り返りながら、当該学年の知識・技能の定着を図ります。
- ◇ 「何をどのように説明するか」や、「数学的な表現の仕方」を明確に提示し、説明する力の向上を図ります。

【理科】

- 小学校では、乾電池の直列つなぎに関する知識が身に付いています。
- 小学校では、発芽するために必要な条件について、実験の条件を制御した解決の方法を発想し、表現することに課題があります。
- 中学校では、身の回りの事象から生じた疑問や、見いだした問題を解決するための課題を設定する力がついています。
- 中学校では、科学的な探求を通してまとめたものを発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りをすることに課題があります。

➡ 課題解決への手立て

- ◇ 予想や仮説と結果が一致しなかった場合、実験の進め方や考え方に問題がなかったかの振り返りを行い学びを深めます。
- ◇ 主体的に振り返りを行うための助言や話型の提示で、自身の学びの変容を自覚する力を高めます。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査結果の分析の概要

- 約8割の児童生徒が「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいると思う(自立力)」と回答しており、小学校・中学校ともに昨年度よりも高く、岐阜県・全国平均よりも高い傾向にあります。主体的・対話的な学びに取り組んだと考えている児童生徒ほど、平均正答率・IRTバンドが高い傾向にあります。

「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う(共生力)」と肯定的に回答した児童生徒は、小学校・中学校ともに昨年度よりも低くなっていますが、中学校は岐阜県、全国平均よりも高い結果です。

「将来の夢や目標を持っている(挑戦力)」と肯定的に回答した児童生徒は、小学校においては昨年度と同程度ですが、中学校においては昨年度よりも高く、岐阜県・全国平均よりも高い結果です。

これらの3つの力は、第3次教育振興基本計画(R7年度～11年度)における美濃加茂市の教育がめざす人間像として児童生徒に身に付けてほしい資質・能力であり、今後各学校において重点的に取組を進めていきます。

- 学習場面における ICT 機器の活用に対して効力を感じている児童生徒ほど、主体的・対話的に学ぶことに前向きな傾向がみられます。しかし、授業での活用状況についてみると、1日に複数の授業で活用していると回答している児童生徒は、全国平均よりも低い結果となっています。GIGA スクール構想で更新されたタブレット端末および学習支援アプリを活用した授業を、様々な教科で展開していく実践を進めていくことが、個別最適な学びや課題の解決に向けて自ら学習に取り組む姿勢を高めていくことにつながると考えます。
- 「先生は、よいところを認めてくれている」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と回答した児童生徒の割合は、小学校・中学校ともに全国・岐阜県の平均よりも高い傾向が続いています。児童生徒と教師の良好な関係が築かれていること、個々の悩みに寄り添い丁寧な校内外の教育相談活動や支援が進められていることが分かります。
- 「地域の大人に勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらっている」と回答した児童生徒は、全国や岐阜県の平均よりも高い傾向にあり、各学校において学校運営協議会を軸に地域と一体となった教育活動が推進されてきている成果と言えます。
- 「学校での授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日まで)、1日当たり2時間以上勉強をする」と回答した児童生徒の割合は、小学校で全国平均よりも低い傾向にありますが、中学校ではほぼ全国平

均並みです。2時間以上の家庭学習に取り組む児童生徒が減少している昨年までの傾向に改善が見られます。知識・技能等の定着を図るために、タブレット端末の活用を含めた家庭での学習習慣の確立を図る働きかけを継続していきます。

- 「読書は好きですか」に肯定的な回答をした児童生徒は、岐阜県、全国の平均より低い結果であり、特に小学校で低くなっています。電子機器の普及に伴い、スマートフォン等の所有が低年齢化していることが背景にあると考えられます。国語の調査では、小中ともに漢字を適切に書く力に弱さがみられています。1日に30分から1時間程度の読書をする生活をしている児童生徒は、平均正答率・IRT バンドが高い傾向がみられることから、適切な読書習慣を身に付けさせていくことが重要だと考えます。

3 全国学力・学習状況調査の活用について

- ◆本市の学力・学習状況等をまとめた指導改善資料を作成し、各校に送付する。
- ◆各小中学校において、校長のリーダーシップの下、全教職員が協力し合って、自校の学力・学習状況の実態を把握し、改善方策を検討し、指導を改善する。
- ◆主体的・対話的な学びの充実を図るとともに、ICT 機器の活用を推進し、「自立力・共生力・挑戦力」の育成を目指して、児童生徒の学力・学習状況の向上に向けた支援を行う。